曹洞俳壇

選・村松五灰子

萬緑（ばんりょく）やもふ難しき山歩き

宮城県　鎌田登喜子

評　夏盛り、萎えてきた脚や身体はいかんともしがたい。往時はあちらこちらと森林浴に吟行にと大自然に遊んだ。心の中のアルバムを開けば楽しかった記憶は鮮明だ。

路線バス桜吹雪を徐行せり

秋田県　小田嶌恭葉

評　心遣いが嬉しい。粋な運転手さんのようだ。見事な桜吹雪がバスを包む映像表現がよい。

◆新妻は小さな声で目刺買ふ　神奈川県　小野沢邦彦

◆警策（きょうさく）の音も変はりぬ更衣（こうもがえ）　神奈川県　佐野　勇

◆長さうで短きこの世暑気払ひ　青森県　中田　瑞穂

◆桃咲きて故郷の山河機嫌良し　愛媛県　井上　征郎

◆散乱の瓦や牡丹くづれたる　愛知県　松井　暁見

◆落椿一杯桶に拾ひたる　静岡県　望月かほる

◆人形の見てゐる出窓ヒヤシンス　大阪府　数藤　茂

◆春陰や補聴器はたと電池切れ　千葉県　鈴木　英子

◆きぬ擦れの音に振り向く菖蒲園　新潟県　星野　三興

◆この骨がまじに母かよ散るさくら　福島県　大槻　弘

＊選者吟

銀河濃きことも温泉（いでゆ）の良きことも　五灰子

＊作句小見

写生句というのは視線で考えることです。心にかかった対象を徹底に凝視すること。そうすると最初には見えなかったものが見えて来てそれが発見に。俳句は自然（広い意味の）と自分の感動や思いを重ねて出来上がります。

曹洞歌壇

選・長澤　ちづ

刻々と色うつりゆく鳥海山飽くなく眺む神御座す山

秋田県　小松　紀子

評　鳥海山は秋田県と山形県の県境にそびえ、出羽富士とも呼ばれる美しい山。旅行者の目ではない崇敬の念と愛情が籠る。朝夕に神を礼拝する気持で接している様子が、簡潔に伝わってくる。

生きづらい世の中ですと飼い猫が上目遣いに我を見ている

東京都　野村　信廣

評　夏目漱石の『吾輩は猫である』を思い出す。猫に託して作者は何か言おうとしている。しかし一首の構図は飼い猫が作者に抗議している。そこが面白い。

◆**啄木が妹連れて渡りし海北の浜辺に海鳥の鳴く**
東京都　鈴木　正作

◆**千年の夢ほどかれて出土さる埴輪見ている滝桜ばな**
福島県　大槻　弘

◆**田植終え腰の痛みに耐えながら砂利踏む吾が影亡父に似てきし**
岩手県　宍戸さとる

◆**野良猫の居着きて二十四年過ぐ猫語十指に余るほど識る**
秋田県　小田嶌恭葉

◆**クイックイッと肩でリズムを取りてゆく坐禅が吾をノックする寺**
青森県　中田　瑞穂

◆**洋酒かと見間違えたる瓶に入りカナダ土産のメープルシロップ**
奈良県　鈴木　重雄

◆**窓開ければ鶯鳴く音きこえきて妻手招きす声をひそめて**
新潟県　星野　三興

◆**大地震にひび割れしたるコンクリートの道のすき間にわすれな草咲く**
岩手県　阿部　凞子

◆**温かき模様のカップけふからは明るき春の珈琲時間**
岐阜県　後藤　進

◆**被災者の支援までには及ばぬが僅かな募金に願いをこめる**
愛知県　深谷ハネ子

＊選者詠

真っ直ぐに海へと向かう滑走路胸に通りて風を呼び込む

ちづ

＊作歌小見

深谷さんの一首、多くの人の気持です。いつ何時、わが身にも起こるか分からない災害。東日本大震災の、またこのたびの熊本地震の被災者の皆様に早く元の暮しが戻るようにと祈ります。阿部さんの一首も忘れないでと訴えています。

大本山永平寺

大燈籠ながしでの施食会

八月末、九頭竜川永平寺河川公園を会場にして「九頭竜フェスティバル二〇一六　永平寺大燈籠ながし」が行われます。

毎年大勢の方が集まり、今年は八月二十一日に二十九回目を迎えます。午後二時から始まり〈子どもわんぱく広場・ステージイベント・コンサート〉等の催しがあります。そして、辺りが暗くなる午後七時、設けられた特設祭壇には一万基余りの燈籠が並べられ、永平寺の役寮と修行僧、約一二〇名により大施食会（だいせじきえ）の法要を行います。

施食法要は、祭壇の中央に「三界萬霊等（さんがいばんれいとう）」を設けますが、三界萬霊とは、「あらゆる世界のすべてのもの」という意味です。亡き方、ご先祖さまだけではなく、私たちも含めた生きとし生ける全てのものの幸せを願うのが施食法要なのです。法要後、それぞれの想いや願いが込められた燈籠に火を灯し、会場にいる方々の手で川面へと移されます。

九頭竜の清流をゆく燈籠がつくりなす光の帯は幻想的であり、人の心をひきつけます。その光景は、心に残る夜景として日本夜景遺産の「歴史文化遺産」に認定されております。大燈籠ながしは、永平寺の夏の最後を飾る一大イベントなのです。

大本山永平寺／０７７６-６３-３１０２

大本山總持寺

祖跡巡拝と夏季参禅講座

總持寺では七月がお盆の月ですが、修行僧たちの出身地では、ほとんどが八月盆となっております。

このため、八月になりますと多くの修行僧が数日間、師寮寺（師匠のお寺）に帰り、お盆の法要を手伝ったり棚経を勤めます。この期間は、さすがの總持寺も人が少なくなり、いつもの賑やかさから一転して静かなたたずまいを見せます。

特に、この春上山した修行僧にとっては初めての帰省です。この春に行脚姿となり、期待と不安を抱いて故郷を出てきた彼らでしたが、お盆には見違えるようにたくましく成長した姿となって師匠や親の元に帰るのです。

また、八月下旬には「祖跡巡拝」の研修旅行が行われ、ご開山瑩山禅師や二祖峨山禅師はじめ曹洞宗ゆかりの地や寺院を訪ね、その歴史を直接学びます。まさに「大いなる足音」に耳を澄ませる報恩の巡拝といえましょうか。

八月二十六日から二十八日にかけ二泊三日の日程で「夏季参禅講座」が開催されます。

一般の方々対象の本格的な参禅会です。今年は本山の講師に加え、駒澤大学仏教学部の佐藤秀孝教授を迎え、禅の教えや祖師方の生涯について学びます。多くの方のご参加をお待ちしています。

大本山總持寺／０４５－５８１－６０２１